

延岡市：高度成長期を支えた住宅地のカーボンニュートラルによる再生と強靱化モデル

～ニュータウン脱炭素再生戦略～

ひとつがおか

脱炭素先行地域の対象：一ヶ岡エリア

主なエネルギー需要家：住宅2,770世帯、民間施設65施設、公共施設2施設

共同提案者：延岡市ニュータウン脱炭素再生コンソーシアム

取組の全体像

高度成長期の九州有数の大住宅団地であり、大部分が南海トラフ地震津波浸水エリアに位置する「一ヶ岡エリア」において、太陽光・蓄電池、ZEH建替、ZEB子育て支援施設を導入し、デジタル地域通貨「のべおかCOIN」等を活用してニュータウンのリニューアルと脱炭素化を組み合わせ、災害に強いまちに再生する。循環バスや乗合タクシーのEV化等による、「公共交通網の再構築」、「マイカー依存からの脱却」と「Well-beingなまちづくり」を目指す。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- 住宅等に自家消費型太陽光発電(4,721kW)・蓄電池を導入するとともに、ソーラーカーポート(1,757kW)・蓄電池・EV充電器をPPAモデルで導入
- 市営住宅のZEH-M水準同等の建替え、ZEB子育て支援施設の導入、住宅への省エネ設備導入やZEH化を推進
- CO2削減の見える化システムの導入と官民連携によるデジタル地域通貨「のべおかCOIN」付与や、地域新電力「延岡脱炭素マネジメント株式会社」によるエネルギーマネジメントを実施



引用元：Google社「Google マップ」

2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- 循環バスや乗合タクシーのEV化、住民・事業者のEV買換え促進により、地域交通の脱炭素化を図る
- 市営住宅跡地にZEB子育て支援施設とカーシェアリング、EV充電スタンド、シェアサイクルを整備し、ゼロカーボンリニューアルを実現

3. 取組により期待される主な効果

- ニュータウンのリニューアルと脱炭素化を組み合わせることにより、地域の魅力向上を図り、移住・起業する市内外の人材の増加、生産年齢人口の増加を図る
- 大部分が南海トラフ地震津波浸水エリアに位置することを踏まえ、地産地消エネルギーシステムを構築することにより、災害に強いまちに再生
- 再エネを活用した新しい交通サービス(EV乗合タクシー・EV循環バス)を導入することにより、公共交通網の再構築を図り、マイカー依存からの脱却とWell-beingなまちづくりを目指す

4. 主な取組のスケジュール

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	住宅、事業所への太陽光・蓄電池設備設置			
	ソーラーカーポート、蓄電池、EV充電器導入			
	住宅への省エネ設備導入補助			
	住宅へのZEH化支援			
	市営住宅のZEH-M建替、ZEB条件分譲			
	CO2見える化による再エネ自己消費促進、エネマネシステム導入			
	EV乗合タクシー・EV循環バス 導入			
	カーシェア・シェアサイクル 整備			